

令和2年度 中学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に注意して、正しく文章を書くこと。 ・登場人物の気持ちなどを、叙述を基に想像すること。 ・漢字を正しく読み書きし、活用すること。 ・相手に伝わるように、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初め・中・終わりの組み立てで文章を書き、文章のまとまりを意識して書く練習を繰り返し行う。原稿用紙の使い方に関しても、文章を書く中で繰り返し指導する。 ・物語の叙述から、どのような気持ちを読み取れるか自分で考えたり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れることで、イメージを広げていく読み取り方ができるようにする。伝え合う際は、一定の距離を取ったり、プリントを見合ったりして、密をさけるように指導する。 ・漢字ドリルの練習や、日々の小テストに繰り返し取り組むことで、正しく漢字が読み書きできるよう指導する。文章を書くときは既習漢字を使うことを指導する。 ・朝や帰りの会などで、繰り返し「話す」ことを経験させる。話す時にも組み立てに気を付けさせ、話の中心が相手に伝わる話し方ができるように継続的に取り組む。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合いをすること。 ・自分の意見とその理由を区別して書くこと。 ・漢字を正確に書き、文や文章の中でも使うこと。 ・ローマ字を書いたり読んだりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や、朝の会・帰りの会でも聞く活動を多く取り入れ、必要なことを記録したり質問したりしながら聞く力を育て、自分の考えをもつことができるようにする。友達との意見交換の際には、密に気を付け、一定の距離を保ち、必要以上に近寄らずに活動する。 ・紹介文、感想文、新聞を書くなど、さまざまな言語活動を取り入れ、目的に応じた文章を書く学習を積み重ねることで自分の意見とその理由を意識して書けるようにする。また、書いたものを推敲する習慣も付けさせるようにする。友達の文章を読み、互いの文章の良いところを見付け、伝え合うようにする。 ・漢字小テストを定期的に行うとともに、作文を書く際には既習の漢字を使って書かせるようにする。国語辞典や漢字辞典をすすんで活用し、自分で調べ、積極的に使うようにしていく。 ・タブレットでローマ字入力の練習をさせたり、身近なローマ字の言葉を読む・書く練習をさせたりして、ローマ字を使えるようにする。
社会 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区の地域の産業や地域の様子の変り変わりについて地図帳や具体的資料を用いて調べまとめること。 ・地域の生産・販売の様子から学習の問題を見出して、追究していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外活動が少ない分、資料や動画を用いる。観察の視点や調査の目的を明確にもたせることで、地域の場所による違いや特色に気付かせ、地図との関連性をつかむことができるようにする。 ・写真や文章資料・地図などを手掛かりに、大田区の特徴を調べる学習を取り入れる。 ・スーパーマーケットの資料を基に視点を明確にもたせて、学習問題を作り、地域の生産や販売の様子を理解する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、自分事としてとらえ、自分の考えをもつこと。 ・グラフや地図など、資料の読み取り、読み取ったことを伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみや水の問題などの社会的事象と自分たちの生活を関連付けて課題を設定する。学習問題が解決できるように、教科書や資料、インタビューなど多様な視点で調べ、分かったことをノートやワークシートにまとめる。 ・地図帳や各種の具体的資料を活用する機会を増やして情報をまとめる力を身に付けさせる。資料を読み取る視点を明確にして指導する。各教室に大きな地図を用意し、説明に使用する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぐ人たちや、地域の人たちなどの思いや願い、努力について理解すること。 ・年間を通して47都道府県の名前と位置を覚え、生活の中で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間と合科的に学習をすすめる。 ・具体的なイメージがとらえられるように映像資料を活用し、人々の思いや願い、努力が身近に感じられるようにする。 ・休業中に学習をしたり、授業で都道府県に関連する内容を取り上げたりして、都道府県の名前や位置を思い起こすようにする。ワークシート等で地図記号や地名など覚えておくべきものを継続的に指導する。
算数 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の計算の仕方について理解し、計算すること。 ・数の大きさや長さの量感覚などについて具体的にとらえ、意味や計算の仕方について理解すること。 ・数学的思考力が問われる文章問題について考え、解決の仕方を書いたり説明できたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・等分除や包含除の計算が成り立つ場面をイメージしながら問題が解けるように、具体物を使用して文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を増やす。 ・生活場面を取り上げて「万」や「億」などの位を具体的にとらえられるようにする。また、位取り表や巻き尺などを使って、実際に数を書き込んだり長さなどを調べたりして、実感をもって理解できるようにする。 ・問題の場面設定を理解した上で、正しい立式を確かめたり、問題の解決方法を図や言葉などを使って説明したりする。また、必要に応じて、練習問題を用意し、文章問題を解く力を伸ばせるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数の意味と、大小を理解すること。 ・分数の加法、減法の計算の仕方について理解し、計算すること。 ・直方体・立方体の概念や性質を理解し、展開図の書き方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数や小数について、大きさを理解したり、大小関係を理解したりできるよう、数直線を効果的に活用し表現したり説明したりする経験を増やす。また、同じ大きさの分数と小数を同一数直上に表記し、大きさが同じであることを実感できるようにするなど、分数と小数を関連付けて指導する。 ・分数の種類(真分数、仮分数、帯分数)の違いを明確にし、相互変換できるようにする。また、計算力の定着を図るために練習問題を授業の進行に合わせて用意するとともに、年間を通して繰り返し練習できるようにする。 ・実物や身近な具体物について考えを広げ、実際にある物の形と学習した形の共通点に気付くようにしていく。
理科 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲を高めること。 ・科学的思考・表現力を高めること。 ・予想を立て、結果・考察を発表し伝え合うこと。 ・植物や昆虫の育ち方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など体験的な活動やこれまでの経験などを想起し話し合う活動などを多く取り入れる。 ・自分の考えを実験・観察に生かし、与えられた実験をするだけでなく、児童に実験の条件や方法を考えさせたり、話し合わせたりして問題解決の能力を少しずつ向上させる。 ・計画的に実験を行い、分かったことを自分の言葉でまとめたり、どのような考察の書き方がよいのか全体で共有したりする ・天候によって校庭に出られない場合や密を避けるために、拡大掲示や映像などICT機器を活用する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への関心・意欲を高め、自然事象についての知識・理解を高めること。 ・季節ごとに自然の変化や生き物の様子を理解すること。 ・水の三態変化を理解すること。 ・金属、水及び空気の温まり方や体積の変化を実験し、理解できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の仕方を実物や映像を見せるなど工夫し、児童の学習意欲を高める。単元のまとめで振り返りの問題に取り組んだり、適宜映像を見たりして既習事項を振り返り、知識の定着を確実にする。 ・年間を通して植物や生き物を観察させ、それらの変化を捉えさせる。記録のつけ方を合わせて指導する。 ・「自然の中の水」の学習と関連付けて学習する湯気と水蒸気の違い等、混乱しやすい事項が多いため、それぞれの水の状態について実験を通して実感を伴って理解できるようにする。 ・経験や既習学習を生かして、ものの温度と体積の関係を考えさせる。また、実験の進め方については、問題、予想、実験、結果、考察、まとめの学習活動の流れを定着させる。 ・できるだけ実験器具などの共有を避ける。可能な限りペア、また

		な個人で観察・実験を行う。
音楽 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの息の使い方とタンギングの仕方を理解し、良い音色で演奏すること。 ・呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏や CD 音源、デジタル教科書などを活用して、リコーダーの音色の良さを感じ取るようにする。また、友達の音を聴き合いながら吹くことで、息の強さに気を付けたきれいな音色で演奏できるようにする。演奏の際には感染症予防としてパーテーションを利用し、間隔を開けるなどする。 ・階名唱の機会を多くもつことで、旋律の音の動きに気付かせ、子音・母音が明瞭で無理のない発声になるように気を付けさせる。また、感染症予防の観点からも、大きな声よりひびきのあるきれいな声を身に付けられるよう指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現活動において、自分の思いや意図をもち、ふさわしい歌い方や演奏の仕方で行うこと。また、そのために必要な技能を身に付けること。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付き、曲全体を味わって聴くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の楽曲を用い、スタッカートやスラーなどの表現方法や、強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして、表現を工夫する楽しさを味わえる場面を多くつくる。また、表現活動の際には、感染症拡大防止のため、パーテーションを使用したり、間隔を開けたりする。 ・その曲において、指導の中心となる視点を明確にする。また、曲を聴く活動とともに、中心となる旋律を簡略化した譜例や楽器のイラストなどを用いて可視化し、音楽の構造に気付くようにする。
図工 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって取り組めるよう、素材から自由に発想したり、作りたいものを思いついたりすること。 ・工作の基本的な道具を安全に気を付けながら使用できること。 ・自分たちの作品や身近な美術作品などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材に関わる時間を十分に設け、素材のよさを実感したり、作りたいもののイメージなどを子供達同士で共有したりすることで、自分の作品のイメージをもてるように指導する。 ・道具を使用する前に、安全な使い方やルールを明示し、きちんと守れているか確認を行う。 ・自分の作品について鑑賞カードを書くことで、作品のよさを友達に伝えやすいようにする。 ・自由に歩いて鑑賞した後、友達の作品のよさをカードに書く時間を設けたり、友達に自分の作品を語る場を設けたりすることを通して、色や形に対する見方を深め、友達の作品のよさを感じ取る視点を養う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるようにする。 ・用具や材料を安全で適切に使えるようにする。 ・自己肯定感をもてるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の中で、児童が意思決定する機会を増やして主体的な活動を促す。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。道具の共用はできるだけ避け、必要な場合は消毒しながら使う。 ・互いの作品を鑑賞する機会を設けて、友達の作品や表し方の良さや面白さを共有し、認め合えるようにしていく。鑑賞の際には一定の距離をとり、作品への接触は控えるようにする。 ・展覧会の出品作品を自分で選ぶようにして、より自信のある作品を発表していけるようにする。
体育 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてをもって運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場で運動したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域で学習カードを活用し、運動のめあてをもたせる。運動に効果的な場を設定して自分にあった場で運動できるようアドバイスする。活動を終えるときには自分の取り組みを振り返らせるようにする。 ・ペアやグループの学習を意図的に取り入れ、お互いの運動を見合う機会を作り、考えたことや気付いたことを伝え合うようにさせる。また、アドバイスがお互いにできるように、見るポイントをしっかり確認する。 ・ICTを活用し、友達のいいところを見付けたり、手本として真似し

	<ul style="list-style-type: none"> ・体のバランスをとったり、基本的な技を組み合わせる運動をしたりすること。 ・運動に合わせて、規則を工夫したり、作戦を考えたりすること。 ・ボールを投げる運動、投力を高める運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たりすることで技のイメージをもたせ、出来を確認する。 ・日常的に体を動かすことにより体力向上を図る。 ・「ボール運動」ではチームや友達と協力して、ルールを考えたり、簡単な作戦を考えたりする活動を意図的に取り入れ、お互いに考えたことを伝え合うようにする。作戦が成功したかどうかをチームでカードを活用しながら振り返り、次の運動につなげていくようにする。 ・遠くに投げることを意識できるように、手だけでなく、腰や肩を使った投げ方のフォームの指導や腰の捻転を意識させる。場の設定を工夫して取り組むようにさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてをもって運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場で運動したりすること。 ・自分たちで運動の仕方を工夫すること。 ・跳び箱運動など、腕で体を支える運動ができること。 ・投の運動技能を高めること。 ・体づくり運動を適宜取り入れ、体力を高めること。 ・持久力を高めること。 ・運動の楽しさを味わえるようにルールを工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域で学習カードを活用し、運動のめあてをもたせる。密集を避けながら運動に効果的な場を設定し、自分で選べるようにする。運動の仕方の工夫を評価し、工夫を意識させる。活動を終えるときには自分の取り組みを振り返らせるようにする。 ・感染予防対策を講じつつ技能ポイントを図や写真、実演などでチームの中で試しながら教え合い、ペアやトリオ、グループ学習を取り入れ、自分たちで運動の仕方を工夫できるようにする。 ・手の付き方や体を引き付けるタイミングなど、技能ポイントが自分では見えづらい部分が多い。友達と見合う際の視点をもたせたり、タブレットで自分の動きを録画したりして学習させる。ねこちゃん体操を取り入れる。活動前後は手洗いをを行う。 ・1学期のベースボール型のゲーム以外に、2・3学期にもペットボトル投げ等「投の運動」の授業を計画し、年間複数回学習する。教具の消毒を欠かさないようにする。 ・密集を避けながら速さ、リズム、方向などを変えて這う、歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、下りるなどの動きで構成される運動や一定の速さでのかけ足などの運動を通して、体を移動する動きを身に付けるとともに持久力を養う。 ・男子は5分間程度、女子は3分半程度の持久走を計画する。 ・運動経験の差を考慮し、ルールを児童の実態に応じて声を聞きながら変え、全員が運動の楽しさに触れられるようにする。
外国語活動 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ・自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を示しながら話したり、視聴覚教材を工夫したりしながら、繰り返し音声を聞いたり、話したりする活動を行ったりすることで、無理なく基本的な表現に慣れ親しめるようにする。 ・自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、工夫(アイコンタクト、相槌など)している児童を全体の場で見上げたりしながら、互いの思いを伝え合う活動を多く取り入れる。 ・伝えたい思いを大切にしながら活動できるように、互いに認め合う雰囲気づくりを行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み方が発せられるのを聞いた際に、どの文字であるか分かること。 ・挨拶をしたり、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったりすること。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄につい 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生での既習であるローマ字を活用しながら、どのように読むか指導したり、フラッシュカードに文字を表記したりして、文字に慣れ親しむよう教材を工夫する。 ・授業の始まりの挨拶をパターン化したり、既習事項を活かしてコミュニケーションを図る活動を頻繁に取り入れたりする。友達と英語を使ってやり取りする際には、距離を確保し、密に気を付けたうえで行う。 ・教師自身が自分の日常を英語で話すようにし、児童自身も自分

	て、人前で実物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。	のことを話したいという気持ちにする。その際は日本語も一部使いながら、児童の伝えたい気持ちを大切に指導にあたる。
--	---	---